

医療用消耗品

# 洗浄滅菌能力 増強

三田理化工業

## 年50万本体制構築

### 兵庫の開発センター拡張

三田理化工業(大阪市北区、千種康一社長、06・6458・0971)は、アンプルなど医療用消耗品の洗浄滅菌処理能力を従来比約1.7倍の年間50万本に引き上げる。既存拠点である「開発センター」(兵庫県西脇市)の隣接地に新拠点を建設、11月1日稼働する。総投資額は約3億円。これにより医療用消耗品の売上高を5年後までに約1.5倍の3億円へ拡大を目指す。

新拠点は既存センターに設けた。平屋建てで隣接地に、同センターを延べ床面積は従来比1.5倍の約520平方メートル。拡張する格好で新



半分以上をクリーンルームが占める。うち約70平方メートルは「国際標準化機構(ISO)クラス5」のクリーンルームで、高度な清浄管理が必要

な容器の洗浄滅菌加工にも対応する。アンプル、バイアル、パウチ、真空バック袋、哺乳瓶といった医療用消耗品を自社製の装置を用

いて洗浄・滅菌加工する。陽電子放射断層撮影(PET)センターの放射性医薬品を生産する現場や、製薬会社の開発現場などで無菌・滅菌容器の需要が高まっているため生産能力の増強を決めた。

新拠点は顧客に公開し、洗浄滅菌装置購入を検討する顧客や、消耗品を利用するユーザー向けのショールームとしても活用したい考え。

(完成予想図)